

渡辺復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成31年1月17日(木) 17:58~18:00 於)福島市)

1. 発言要旨

本日は、福島県漁業協同組合連合会、JA福島五連、福島県商工会連合会、そして福島県商工会議所連合会の代表の皆様方と意見交換をしました。

意見交換の中では、復興・創生期間後の支援の継続、東京電力福島第一原発事故の収束やトリチウムを含む処理水の取扱い、県産品に対する風評被害の払拭や販路の回復・新規開拓、福島イノベーション・コースト構想の推進、森林、農業用ダム、溜め池、水路等の除染作業の促進等について要望を頂いたところでございます。

また、いわき市の小名浜魚市場では、魚介類の放射性物質検査の状況について、三春町のコミュニティ福島では、放射線に関する情報発信や教育について、それぞれ視察をいたしました。

そして最後に、ここ、福島市にある復興公営住宅の北中央団地を訪問し、高齢者住戸の3LDKタイプを視察し、その後、自治会やNPO法人みんぷくの皆様方から団地での生活の様子やコミュニティ形成の流れ、実際の取組等についてお話をお伺いしたところでございます。

本日の意見交換や視察を通じて、産業・生業の再生や被災者支援の重要性を改めて感じたところでございます。これからも復興行政において、しっかりと取り組んでまいります。

2. 質疑応答

(問) 今程、大臣がおっしゃった要望の中で一つ、県漁連から恐らくトリチウム水に関する要望もあって、野崎会長は海洋放水に反対する立場を示されたかと思うのですが、その要望に対して、大臣のお考えをお聞かせください。

(答) 基本的にはこのトリチウム水の対応については、ALPS小委員会でも総合的に検討していると私は理解をしておりますので、この点については、小委員会の議論を注視してまいりたいというふうに申し上げました。

(以上)